

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

柴田繁勝議員

1 正雀駅前のまちづくりについて

(1) 十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバス等の機場所設置の考え方について

(2) 駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策について

(3) 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望について

【質問1回目】

○柴田繁勝議員 正雀のまちづくりについてということでお尋ねをいたします。

十三高槻線と駅前への導線計画ということで、道路拡幅進捗状況、このことにつきましては、先般の本会議の中でも山本議員がお尋ねになり、部長が少しそのことにふれたご答弁もされていたかと思いますが、あえて私はここで何を聞きたいかといいますと、この道路拡幅進捗は大変難しい難題であります。その中で中間地点でのバス等の待機場所設置の考え方についてということで、このことと合わせて十三高槻線の側道が完備したときには、ぜひあそこに循環バスなり、また各病院のバスなどが待機できるようなところを一日も早くつくってあげていただきたい、こういうことできょうはお尋ねをさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。

2番目は、駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策についてであります。ここにつきましては、ガードにまた白いペンキ等を塗っていただいたり、LEDの電気をつけて、竹之鼻ガードだとか坪井ガードが非常に通りやすく明るくなっておりますが、これに匹敵するような地下道ができるというふうにも聞いております。

明るいことは事故には少し少なくなるということでしょうけども、抜本的にはあその公道がどうしても事故が起りやすいような公道になっていると。両方の坂道から下ってきたところで、出会いがしらに歩行者と自転車、また自転車同士、自動車と自転車、歩行者と、こういうふうなところが危機一髪とい

うことを私は何回も見ておりますので、この辺の道路の安全対策はどうなさるのかということをお聞きしたいと思います。

それから、3番目は、市長がずっと就任以来、夢のあるまちをつかっていくんだということをおっしゃっていただいて、その一つの夢としては、先般開業しました摂津市駅のまちづくりは多くの皆さんにすばらしいまちができましたねと、こういうふうなことを他市からも聞かせていただいて、私も摂津に住んでいてよかったなど、こういう気持ちを持っているわけであります。

また、その反面、この正雀は私が市会議員に40年前になりましてから、このまちを何とかかせないかんというので、地域の皆さんが寄られているんなことを検討され、何回となくその構想を練られてまいりましたけれども、いまだにそれは40年前とほとんど変わっていないという現状であります。そういうところで、夢のあるまちづくりとあわせて正雀地域の将来的な展望についてここでお聞かせいただきたいと、こういうふう思うわけあります。

【質問1回目への答弁】

○藤井土木下水道部長 正雀駅前のまちづくりにつきましての、十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバスなどの待機場所設置の考え方についてのご質問にお答えいたします。

現在、大阪府により整備されております十三高槻線は、平成26年春に正雀工区の本線が交通開放され、側道におきましては平成26年度中には交通開放できると伺っておりま

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

柴田繁勝議員

1 正雀駅前まちづくりについて

(1) 十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバス等の機場所設置の考え方について

(2) 駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策について

(3) 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望について

す。

次に、本市により実施しております阪急正雀駅前におきます道路拡幅計画では、阪急正雀駅前交差点より南行きの正雀本町14号線及び7号線の一部に両側2.5メートルの歩道と車道7メートルの総幅員12メートルの道路を、交差点より西行きの正雀南千里丘線では民家側に3.5メートルの歩道と車道7メートルの総幅員10.5メートルの道路拡幅計画を進めております。

進捗状況としましては、平成24年度末の時点で用地買収面積の約25%を確保しております。今年度におきましても引き続き用地取得に努めてまいります。仮に交渉が成立し、用地が取得できました場合、約50%を確保することとなります。今後におきましても、十三高槻線の完成を見据えながら、財政状況も厳しい中ではございますが、国からの補助金を活用し、道路用地の取得に努め、十三高槻線から阪急正雀駅前まで安心安全な道路整備に取り組んでまいりたいと考えております。

また、十三高槻線の側道供用に合わせ、正雀駅へのアクセスとしましてバスの乗り入れを考えておりますが、それには停留所や待機場所などのスペースが必要であり、今後、府営住宅用地の活用が必要不可欠でありますので、関係機関と協議してまいります。

続きまして、駅地下道の歩行者、自転車、通行車の安全対策についてのご質問にお答えいたします。

阪急正雀駅は駅開業時に地下に大阪及び京都方面のそれぞれにホームへ上がる改札口が

あったため、地下道が設置されておりました。現在は橋上駅舎の形態となったことから、岸部側と正雀側を結ぶ地下道の役割となっております。通行帯としましては、自動車を朝の7時から9時の時間帯のみ通行禁止とした岸部方面への一方通行道路であります。本地下道は車道と歩道の構造的な分離がないことから、事故防止のため、カーブミラー及び啓発用の看板を設置するとともに、路面表示にて車道と歩道を区分しております。

実施予定の安全対策としまして、今年度では昼間でも地下道が薄暗いことから、壁を明るい色に塗装し、照明灯をLED灯に取りかえる工事を実施いたします。今後におきましては、車と自転車などの事故を未然に防ぐ観点から、歩車分離線の再配分やカラー舗装化など、さらなる安全対策として何が適しているのかを検討してまいります。

○吉田都市整備部長 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望についてのご質問にお答えさせていただきます。

正雀地域のまちづくりにつきましては、平成2年に地元自治会や商業団体の代表者などの方々を中心にした正雀駅前地区まちづくり懇談会を設置し、正雀地区の将来について議論を重ね、平成4年には提言書をまとめられております。本市ではこの提言書を受け、正雀地域のまちづくりについて調査、検討を行うとともに、将来のまちづくりを担う若手の人材育成にも取り組んでまいりました。

しかし、バブルの崩壊後の長引く経済低迷の影響などもあり、具体的なまちづくりの計画づくりには至れない状況であります。そ

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

柴田繁勝議員

1 正雀駅前のまちづくりについて

(1) 十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバス等の機場所設置の考え方について

(2) 駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策について

(3) 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望について

の後、平成18年には住民、地元大学、商業者などの正雀地域のまちづくりについて話し合いができる場として正雀駅前地区まちづくりワークショップを開催し、毎年テーマを決め、住民を主体とした活動が続けられています。

正雀地域周辺では十三高槻線の整備が進み、駅前では交通バリアフリー基本構想に基づき、歩行者の安全確保を図るため歩道の設置を進められるなど、正雀地域を取り巻く環境も変化してきております。十三高槻線が整備されますと駅の近くまでバスが導入することも可能となり、また、吹田市域とつながることが人や車の流れも大きく変わるものと考えております。今後は著しい高齢化社会となる見通しの中で、安全安心なまちづくりを基本として、正雀地域の将来について何が地域の活性化に寄与されるのかを検証することが重要であり、地域の方々との連携を維持しながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

【質問2回目】

○柴田繁勝議員 それぞれの部長さんから丁寧なご答弁をいただいて、これが今摂津市の中で精いっぱい私の質問に対してお答えいただける内容ではないかというふうに理解します。だから、2回目の質問はいたしません。ただ、ここで一つお尋ねしたいのは、正雀のやはり夢のあるまちづくりということで、私は40年間このまちと一緒に過ごしてまいりました。先ほど部長のほうから、平成2年からということですが、この話はもっと以前から、まちづくりをどうするかという人が、大

勢の皆さんが寄られて集まって、一定の報告を出されたというふうにも私は聞いておりますし、そのようであろうと思います。

そういう中で、市長が摂津市駅をつくったときに、これには匂というものがあるんだと、しかし正雀は放っておけないまちの一つであるということで、既に平成18年からご自身が行かれてまちを歩かれて、ここには少なくとも十三高槻線ができた折には導線をつくる、そのための道路拡幅をしなければならんということで、今回も補正に取り組んでいただいているわけでありまして。そういうことを含めて、きょうはひとつ市長のほうから、市長になられて9年目でありまして、これからのまちづくりをどのように夢のあるまちづくりということで正雀の展望をお考えになっておられるのかということをごきょうは聞かせていただきたいというふうに思います。

【質問2回目への答弁】

○箸尾谷教育長 教育委員会制度改革につきましてのご質問にお答えいたします。

現在、国におきまして教育の責任の所在が不明確である、あるいは教育委員会の審議が形骸化しているといったような理由から制度改革の議論が行われておりますことは、先ほど教育総務部長からご答弁申し上げましたとおりでありまして、今後ともその議論の方向については注視をしてまいりたいというふうに考えております。

教育委員会事務局といたしましては、これまでからも教育委員会議におきまして、学校の実態に即した建設的な議論ができますように、各校の現状等に関する定期的な報告であ

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

柴田繁勝議員

1 正雀駅前まちづくりについて

(1) 十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバス等の機場所設置の考え方について

(2) 駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策について

(3) 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望について

りますとか、あるいは学校視察等を通しまして教育委員に対してきめ細かな情報提供を行ってまいったところでございますが、今年度よりこれらに合わせまして、新たに教育委員会によりまして全校長に対する学校経営計画のヒアリングを実施いたしております。このことによりまして、教育委員と校長一人一人が直接学校の教育目標や課題などに対して意見交換が行えるということで、より開かれた学校運営が進むものというふうに考えております。

今後とも制度改革の議論がどのようになりましても、必要に応じて事務局を含めた教育委員会機能のあり方について見直すなどいたしまして、教育委員会のより一層の活性化を図り、市長部局との連携のもと、適切な教育行政が推進できるようにしていきたいというふうに思っております。

【質問3回目】

○柴田繁勝議員 市長、そして教育長ありがとうございました。私もこれが最後の質問になるのかなと思ったとき、ちょっと気持ち的には動揺するものがありますが、初めてこの議会、40年前に出ささせていただいて、最初にさせていただいた質問が緊急質問でした。ある工場の中の水たまりでとうとい命が亡くなった。そのときに公共施設の池にも子どもがはまらたら行政の責任はどうでしょうか、このことがきのうのように思い出されるんですが、それから40年、くだらん質問やらいろいろと笑われることもたくさんありましたけれども、いよいよきょうこうして最後の質問の一般質問をさせていただくというこ

とになりましたので、私としては感慨無量でございます。

今、皆さんから言っていただいたご答弁を私は最後の一つの心の支えとしてこれからのまちのあり方についてまた別な角度で見守らせていただきたいなと思います。

そこで、少し苦言になるかもわかりませんが、私はこの正雀の駅前につきましては、何回もこうした報告書が出ております。先ほど部長からも、平成2年に提言をいただいて、既にここで出ておりますのは、報告書としては平成6年3月に出ております。それからまた、平成7年11月には駅前再開発特別委員会にも整備計画の計画書が出ております。そして、最終的には平成8年3月に策定事業の基本計画調査ということで報告書が出ております。私は今回の質問に対して、この報告書をできるだけ細かく読ませていただきました。見事に摂津市正雀の将来のあり方についてきちっとうたわれています。ただ、残念ながら、今日の正雀の姿を見たときに、少し乖離が大き過ぎるという感じは受けます。

しかし、精いっぱいやってこられた今日でありますから、これ以上やりにくい問題がたくさんあります。私は地元の中でいつも地元の人と話をするんですが、ややもすればまちづくりは多くの皆さんを囲むんですけども、一番肝心な地元の権利者なり地権者なり、その方々が疎外されているというか、その人たちの意見がなかなか集約されないの、もっと端的な言い方をしたら、やれるものならやってみはったらよろしいがなど、こんな感じにすらなるのではないかというほど、たくさ

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

柴田繁勝議員

1 正雀駅前のまちづくりについて

- (1) 十三高槻線と駅前への導線計画、道路拡幅進捗状況、中間地点でのバス等の機場所設置の考え方について
- (2) 駅地下道の歩行者、自転車通行者の安全対策について
- (3) 夢のあるまちづくりと正雀地域の将来的な展望について

---

んの地権者なり、また借地権者がおられるこういう地域は、やりにくいということが現実にあると思うんです。

そういうことも踏まえて、今後やっぱり大きくは周囲を囲っていく、小さくは一番肝心な、やっぱり地域の人の開発に対するメリットはどこにあるのかということも十分考えた中でこれからのまちづくりというものを進めていかなければならないのではないかなと、そういうことを感じました。

その中で、私は先般も委員会質問で言ったんですけど、議会の中でお願いしたいのは、過去にたくさんの皆さんが一般質問なり代表質問なり、いろいろな場面で問題提起をさせていただいております。一つ問題を前に進めるとき、一つの新しい事業をするときは、過去にどのような議員がどのような会派からどのようなことがやはり提言され、意見としてここへ出てきたかということは、職員の皆さんはもう一度、少しそれは認識をしていただきたいというふうに私は思うわけです。その上に立って新しいものを構築していくということが大事ではないのかなというふうに思いますので、これも最後になりますが、そういう気持ちをぜひ、ちょっと苦言になりますけれども、お伝えしておきたいと思います。